



令和3年度決算のポイント

令和3年度の財政運営は、新型コロナウイルス感染症が終息しない中、ワクチン接種の取組を進めるとともに、医療機関、介護事業所など感染症拡大防止の最前線に対応されている事業所に対して特別給付金を支給しました。そのほか、営業時間短縮協力支援金や国事業の対象外となっていた子育て世帯へも臨時特別給付金を支給するなど、市独自分としてのコロナ対策に係る事業にも注力しました。また、市制50周年を迎え、これまでの50年に感謝するとともに、今後の50年の本市の発展を見据えた取組を進めました。

一般会計においては、特に歳入の増加によって実質収支が31億8千万円となったことから、9月議会に子育て世帯に対する施策、インフラ整備等の約21億円の補正予算を追送議案として上程するとともに、今後においても市民の皆さま、事業者の皆さまの暮らしにつながるよう速やかに適切に活用していきます。

■一般会計の概要

決算収支の推移

(単位:百万円)

年度	H29	H30	R元	R2	R3
歳入	36,939	37,178	41,792	52,556	46,654
歳出	35,886	35,119	40,166	50,685	43,406
実質収支	905	1,131	1,478	1,811	3,180
単年度収支	223	226	347	333	1,369

歳入…市税において、新型コロナウイルス感染症の影響などにより全国的に大幅な減収が見込まれたことを踏まえた予算を計上しましたが、国税収入を始め大幅な税収増となったため、見込み値を遥かにこえる増収となりました。

歳出…新型コロナウイルス感染症の影響等により見込値と比べて大幅な乖離が出たことや、スピード感を持って補正予算を複数回編成したことから、予想以上に執行残が生じました。

■特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療）で黒字あるいは収支均衡となりました。

■財政関係指標等

◇財政指標

- ・経常収支比率は、歳出で退職手当が増加したものの、歳入で地方消費税交付金を始めとする県税交付金や地方交付税、地方特例交付金などが大幅に増加したため84.4%で5.3ポイント改善しました。
- ・実質公債費比率は、標準財政規模が大幅に増加する中、一般会計などの元利償還金、準元利償還金などが減少したことで4.6%から3.9%に改善しました。
- ・実質赤字比率は-1%（△12.73%）、連結実質赤字比率は-1%（△32.20%）、将来負担比率は-1%（△105.2%）となりました。

◇積立基金・市債残高

- ・積立基金残高は108億5,000万円で、令和2年度の実質収支を各種基金に積み立てたことなどにより、前年度から9億7,300万円増加しました。
- ・普通会計の地方債残高は159億2,000万円で、これまでに借入れた地方債の償還が進んだことなどにより前年度から7億3,100万円減少しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市財政課（課長 小澤） ☎0743-74-1111(内線4350)